

日本教育メディア学会

## 学会通信第20号

2000年2月28日発行

### ◆業績の評価に関して－研究者と制作者に関する評価基準－

会長 中野 照海（国際基督教大学大学院教授）

アメリカの大学などでは、教員に対して「出版か、消滅か」というのが一般的である。教員が業績を上げなければ、職を失うというわけである。ここでいう業績とは、「出版」とあるように、主として論文発表を意味している。しかし、教員の業績が論文とは限らない。出版を主としない美術や音楽の教員はどうするか。実技の担当者の場合には、発表会や展覧会の開催をもって評価とすると聞いている。しかし、どんな会場で、どんな規模で、どれくらい頻繁に行うかなど、その判断は容易ではなからうと想像する。

われわれの学会には、放送局や出版社やコンピュータ会社などにあつて、教育番組やコンピュータ・ソフトなどの教育所産の開発に関わっている人たちが多く、あるいは、大学に移る前は、教材制作会社などに勤めておられた方々も多い。これまで、企業から学校へ移動する場合、企業の研究所からは比較的円滑に行われるが、いわゆる制作の現場にいた人の場合にはどうするのか。こう人たちの業績の評価をどうするか。現在、学校教育の分野でも、教員の採用に当って、学校外の経験も重視するようになってきている。しかし、例えば、素晴らしい教育番組の制作の業績を積極的に評価するには、どうすればよいか。人間の能力や経験に関して、だれもが納得するという評価方法は少ない。陸上競技での「速く、高く、遠く」というような、「量的な資料」で判断する評価にはまぎれがない。100メートル競争のように、秒数をもとにする評価は絶対である。しかし、体操のように「力強さ」や、「美しさ」が、判断の基準に入ってくると、評価の問題はややこしくなる。判断の基準が「質的な資料」に拠るからである。それでも、例えば、床運動で「9.8」とか、「4.4」などと、演技が平均点で表示される。だからといって、或る選手の床運動の演技が他の選手の「2倍美しい」とは言いにくい。蒲団の「寝心地の良さ」を「2倍！2倍！」と言うのは、テレビ・コマーシャルの世界だけである。

教員の評価を出版を主としておこなうにしても、その量を基準にするだけでは不十分である。アメリカの場合、消滅しないために、手近な学生を被験者とする実験や調査を行って、やたらに論文稼ぎをすることへの批判をよく耳にする。しかし、論文の質の判断よりも難しいのは、出版には直接に関わらない、教材開発や制作に関わる人たちの業績の評価である。この問題を考えるのは、この学会の仕事かもしれない。その昔、「兵隊の位でいえば」という山下清がいた。政府の叙勲がそうであるように、彼は人間を一次元の尺度に位置づけようとした。しかし、「研究者」と「制作者」の業績を評価するためには、多次元の判断尺度の開発が必要なのではなからうか。

### ◆2000年度第1回研究会の開催と発表者の募集

今日のインターネット時代を迎え、大学教育にも従来の視聴覚教育メディア利用を越えた新しい改善の模索が求められています。インターネット利用やマルチメディア機器の利用、そして遠隔授業の実験など、その改善の方途は多岐にわたっています。

こうした状況を踏まえ、ミレニアムの2000年度第1回研究会を下記の要領で行ないますので、学会員の皆様の日頃の教育実践を踏まえた改善の試みを是非ご発表下さいますようお願い致します。なお、学会員以外で有意義な研究、実践等をなさっている方をご存知の方は、ご推薦下さいますよう、併せてお願い致します。

テーマ：大学教育におけるメディア利用の新たな方策を探る

時：2000年4月22（土）14時～17時

場所：日本大学文理学部（新宿から京王線各駅停車で10分、下高井戸駅下車）

応募締切日：3月20日

原稿締切日：4月15日

応募先：東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部教育学科 小笠原喜康氏

Tel：03-5317-9714 Fax：03-5317-9425

Eメール ogasawa@chs.nihon-u.ac.jp

応募なさった方には、原稿締切日までに、学会誌「教育メディア研究」におおむね準拠するB5版 2段組（間隔7ミリ）、余白（左28ミリ、左、右、下23ミリ）、書体明朝9ポイント、20文字×42行、和文英文表題・名前・所属・要約・キーワード、枚数6～8頁（偶数）で原稿を提出していただきます。日本教育メディア学会研究会で編集し、『日本教育メディア学会研究会論集』（ISSN 1344-8153）第4号として刊行を予定しています。

#### ◆2000年度年次大会について

本年は3年周期で行なわれる教育工学関連の学協会連合大会開催の年に当たりますので、当学会単独での大会は行なわず、下記の要領で第6回教育工学関連学協会連合大会を共催致します。

日時：2000年10月7日（土）、8日（日）、9日（月＝祝日）

場所：鳴門教育大学学校教育学部

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748

主催：教育工学関連学協会連合運営委員会

合同主催：日本教育工学会、教育システム情報学会、日本教育メディア学会

国立大学教育実践研究関連センター協議会

電子情報通信学会教育工学研究専門委員会

共催：日本科学教育学会、日本教育方法学会、日本認知科学学会

人工知能学会知的教育システム研究会

情報処理学会コンピュータと教育研究会

協賛：（社）計測自動制御学会、（社）電気学会、（社）日本建築学会

（社）日本工業教育協会、（社）日本工学教育振興会

（財）コンピュータ教育開発センター、語学ラボラトリー学会

日本カリキュラム学会、日本教育学会、日本教育情報学会

日本教育心理学会、日本教育工学協会、日本教育ソフト協議会

日本行動計量学会、日本特殊教育学会、日本ファジー学会

IEEE Education Tokyo Chapter、日本視聴覚教育協会、日本放送教育協会、  
衛星通信教育振興協会

後援（予定）：文部省、徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、鳴門市教育委員会

大会日程

10月7日（土）

9：00～ 受付

10：00～12：00 一般研究発表 1

12：00～13：00 昼食

13：30～15：30 一般研究発表 2

15：45～17：45 課題研究発表 1・自主シンポジウム 1

18：30～ 懇親会

10月8日（日）

9：00～ 受付

10：30～12：00 一般研究発表 3

12：00～13：20 昼食

13：30～15：30 シンポジウム 1

15：45～17：45 課題研究発表 2・自主シンポジウム 2

10月9日（月）

9：00～ 受付

10：00～12：00 シンポジウム 2

12：00～13：00 昼食

13：00～15：00 一般研究発表 4・English Session

シンポジウム・課題研究テーマ

2つの「シンポジウム」と、各教育工学関連学協会が教育工学関係の今日的課題について検討を行う「課題研究」が10余り設定され、活発な議論が展開されます。

参加・発表等の申込期日・方法

大会への参加と研究発表の申込みは、5月に連合運営委員会事務局から送付する大会案内に添付の申込用紙を使って行なって下さい。

研究発表の申込〆切：2000年6月30日（金）

発表者（登壇者）は、発表時点で合同主催・共催のいずれかの学協会の会員であることが必要です。

発表件数は原則として一人あたり一般研究1件、課題研究1件です。但し、連名発表についてはこの限りではありません。

なお発表時間は1件あたり一般研究の場合15分、課題研究の場合20分の予定です。

発表論文集用原稿の〆切：2000年8月19日（土）必着

原稿用紙は送付致しませんが、所定の書式にしたがって各自作成してください。

参加の予約申し込み〆切：2000年8月31日（木）

参加予約をされる場合、参加費等の納入には大会案内に同封する振込用紙を使って下さい。

大会プログラムの送付：

参加の予約をされた方には、9月下旬に、連合運営委員会事務局から参加章と大会プログラムを送付致します。

自主シンポジウム・自主フォーラムの開催

自主シンポジウムやフォーラムの開催のご希望がありましたら、6月30日（金）までに実行委員会までお申し出ください。但し、自主シンポや自主フォーラムの発表原稿は論文集には掲載しませんので、開催者あるいは発表者側でご用意願います。

一般研究の領域（案）

教育方法 放送教育 視聴覚教育 教育メディア システム開発  
カリキュラム開発 教材開発 教育情報 障害児・者教育 情報教育  
コンピュータ利用教育 教科教育 科学教育 語学教育 日本語教育  
国際協力 C A I 認知発達 人工知能 学習環境 教師教育  
授業研究 教育評価 遠隔地教育 企業内教育 ネットワーク その他  
参加費等

参加費（予約）一般 3500円／学生 2000円

参加費（当日）一般 4000円／学生 2500円

講演論文集 1部 5000円

論文集別刷 2頁 2000円（一般研究・課題研究）

（100部） 4頁 3000円（課顧研究）

論文集送料 1部 500円

懇親会費 6000円

その他

連合運営委員会では宿泊の斡旋はいたしませんので、後日大会案内に同封して配布する申込書を使って旅行代理店（徳島トラベル鳴門支店）にお申込み下さい。

また、大会が休日祝日に跨がる関係で周辺には食事のできる場所が少ないので、昼食の弁当を事前に予約なさるようお勧め致します。

大会問い合わせ先

教育工学関連学協会連合・第6回全国大会実行委員会

鳴門教育大学学校教育学部教育方法講座内

FAX 088-687-2180

◆日本教育メディア学会理事会開催の予告

連合大会前日の10月6日（金）の夕刻、鳴門市において日本教育メディア学会理事会を開催致します。理事の方々には9月になってから詳細のご案内を申し上げますが、予め出席を予定しておいて下さいますようお願い致します。

◆役員の変更のための選挙の実施について

今期（第2期）の理事の任期が本年10月に終了しますので、会則第7章および理事選出にかかわる地区地区内の理事定数に関する規定（ともに1999年9月に発行した会員名簿に掲載されています）に基づいて、6月に、2000年～2003年期（第3期）の理事の選挙を行ないます。

選挙の要領については6月上旬に正会員の皆様にご連絡を致しますので、指示に従って、決められた期日までに郵送により投票をお願い致します。

会則32条に基づき正会員の方々だけが選挙人、被選挙人になる権利を持ちますが、本務をお持ちの方は勤務地所在の地区の理事の選挙権被選挙権を保持することになっております。本年3月～4月に移動の予定のある方は、移動後直ちに住所、勤務先、その他を学会事務局までお届け下さい。なお、本務をお持ちでない場合は、自宅住所の属する地区の理事の選挙権被選挙権を持つことになっております。

◆学会費納入についてお願い

2000年度の会費を同封の振込用紙を使ってお払込み願います。なお、過年度の会費を納めておられない方で未納の年度を承知していらっしゃる方には、調査の上ご返事致しますので、ファックス、Eメール、電話、はがき等で事務局宛お問い合わせ願います。

◆編集委員会からのお詫びとお願い

1999年度分の第6巻の発行が大変遅れ、皆様にはご迷惑をお掛けしておりますが、第1号は3月中にお手元にお届けできる運びとなりました。また第2号の編集作業も進んでおりますので何卒今暫くご寛容の程お願い致します。なお、2000年度発行の第7巻第1号掲載分の論文投稿締切日を7月末日と致しますので、奮ってご投稿下さい。ご投稿の際は1999年版の会員名簿と学会ホームページに掲載されている投稿規定を参照して準備し、同じく掲載されている投稿票に必要事項を記入し、添付してください。

◆会員を増やすためにご協力を！

21世紀に向けて学会を益々発展させるために会員の皆様の積極的なご支援を賜わりたく、研究者や教育実践者を新しい会員としてお誘い下さいますよう、お願い致します。

1999年版の会員名簿に正会員／学生会員用、団体会員用、購読会員用の入会申込書様式が綴じ込みになっていますので、入会希望者にコピーしてお渡し下さい。名簿裏表紙に郵便振替口座番号も載せてあります。なお、学会のホームページからもダウンロードすることができます。

入会申込書が事務局に届き、入会金（2千円）と当年度の会費（正会員＝7千円，学生会員＝4千円，団体会員5万円，購読会員＝7千円）の入金が確認されたら入会手続きが完了します。なお学部学生と博士前期（修士）課程学生は、在学証明書（あるいは学生証のコピー）を提出した場合、学生会員となることができます。